ブラジル/サンパウロ大学留学体験記（宮川拓真）2026/09/14

7月３０日に関西国際空港を出発し、日本時間で８月１日の朝４時に到着しました。ブラジルでは、7月31日の午後４時にサンパウロに到着しました。ブラジルに着くまで乗り換えもあわせて30時間のフライトを乗り切りました。空港からの移動は、ありがたいことにブラジルに住む友人が空港まで迎えに来てくれました。私のように留学先に知り合いがいるケースは多くはないと思います。長時間フライトの疲労に加えて沢山の荷物を持ったまま、海外を移動することは容易ではありません。特にブラジル・サンパウロの場合、Uberタクシーを利用すれば比較的安く安全に移動できるため、出発前にインストールから試運転までしておくことをお勧めします。海外についてからダウンロードすると、アカウントを作れないなどのトラブルが起きることがあるので要注意です。



（１）大学

サンパウロ大学は敷地面積が非常に広いため、生徒はバスを使って移動します。学内にバスが走っており、大学の正門から５分の場所に住んでいても、教室や食堂にたどり着くまでは、25分以上歩きます。サンパウロに来てから、一日に歩く距離が５倍以上になりました。授業は、ブラジルの公用語であるポルトガル語で行われます。ポルトガル語を勉強し始めて１年以内の私にとって、ポルトガル語の授業を理解することは非常に困難です。授業内ではグループワークが多く取り入れられおり、ほぼ毎授業５〜7人のグループでディスカッションをします。授業の内容や、グループディスカッションの内容は、後から英語で説明してくれるなど、周りの人の優しさに助けられています。

授業は、2時間を週二回に分けて行われるものと、4時間通して行われるものとがあります。一番早い授業は朝8時から始まり、一番遅いものは夜の23時に終わります。19時から23時に行われる授業は、昼間に仕事をして、夜に大学に通うという生活スタイルを可能にするために設けられているそうです。しかし、夜間授業は日中に仕事をしていない学生も多く受けています。金曜日の夜には、フェスタと呼ばれるお祭りのようなイベントが毎週介されており、お酒を飲みながら音楽に合わせて踊ったり、社交の場として機能しています。まさに、”Work hard, play hard”を体現した大学です。

また、各建物には生徒がリラックスするためのソファがあり、大学内の壁にはユニークな落書きがあるなど日本よりも開放的で生徒が自由に使える空間やルール設定が多い点が気に入っています。






(2)金銭面

サンパウロでの生活費は基本的に月に 8 万円で過ごしています。住居は月に 3 万円のアパートに住んでいます。光熱費込みで 3 万円のため、非常に安い家を見つけることが出来ました。大学から紹介されたアパートは月に 8 万円が最安値でしたが、他の場所にはより安い場所がありました。ただ、その他の場所は大学側が安全性など責任を持てないために直接的には紹介されていないと考えた方がいいと思います。食費については、日曜の夜以外、一食 2 レアル（約 60 円）で食べることが出来ます。また、大学内のバスの移動は無料ででき、地下鉄も一律 5 レアル（約 150 円）のため、日本よりも安く街中を移動することが出来ます。

最後に、

　サンパウロ大学での学習環境は日本と大きく異なりますが、多様な価値観に触れながら充実した留学生活を送っています。今後は研究活動やブラジル社会についてもさらに理解を深めていきたいと思います。その他の大学外での体験やブラジルでの困ったことなどは次回以降の体験記で書いていきたいと思います。

最後までお読みいただきありがとうございました。

















